

令和3年度 自己評価計画書

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
1 国際社会に貢献する人材の育成を主眼として、高い志を掲げ、その実現に向け主体的に努力でき、難関国公立大学等、志望する大学に果敢にチャレンジする生徒を育てる。	① 生徒の思考力、判断力、問題解決能力、表現力の育成を目指し、授業力の向上を図る。	教務課 全教員	昨年度後期授業評価において、5項目におけるA評価の平均は54.0%であった。内訳は、「ねらい」55.7%、「熱意や工夫」59.6%、「説明や指示」54.3%、「考えさせる場面」57.5%、「興味・関心」42.7%である。	【努力指標】 全教員の授業評価において、左記項目のA評価を増やす。	授業評価において、「授業のねらい」「教員の熱意や工夫」「説明や指示」「考えさせる場面」「興味・関心が高まる」の5項目におけるA評価の平均が A 55%以上 B 50%以上 C 45%以上 D 45%未満	Dの場合、改善策を検討する。	授業評価で調査する。
	② 授業や総合的な学習/探究の時間等の活動を通して、生徒が主体的に課題解決に取り組む姿勢を育む。	進路指導 NSH推進 教務 学年	生徒対象の後期学校評価アンケートにおいて、3教科の肯定的な回答の平均は、71%（英語71%、数学76%、国語65%）であった。1、2年生のうちに自分に合った学習スタイルについて考えて主体的に学習に取り組む姿勢を身につけることにより、弱点克服の基本的な学習や得意分野を伸ばす発展的な学習に取り組ませていきたい。	【成果指標】 生徒が自らの進路実現のためにどのような力が必要かを考え、主体的に学習を進めている。	自らの学習について (ア) 授業や課題以外に積極的に取り組み、独自の学習にも取り組んでいる。 (イ) 授業や課題に積極的に取り組んでいる。 (ウ) 授業や課題には取り組むが、自らを高めようとする努力や意識が足りない。 (エ) その場しのぎの学習が多く、極端に悪い成績を取らないように勉強している。	(ア)+(イ)の合計が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 Dの場合、改善策を検討する。	学校評価(生徒)等で調査する。
			1月現在で、1・2年生で1日の目標学習時間（1年2.5時間以上、2年3時間以上）に達している生徒は49.0%（1年60.8%、2年37.2%）であった。コロナの影響により単純な過年度比較はできないが昨年度より増加している。適正な量・質の課題の提示に努めていくことはもちろん、主体的に家庭学習時間に取り組むための興味・関心を高める授業改善を進めていきたい。	【成果指標】 家庭学習時間が学年の目標値（1年2時間、2年2.5時間）に達している。	家庭学習時間が学年の目標値に達している1・2年生のそれぞれの割合が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	Dの場合、改善策を検討する。	家庭学習時間調査により集計する。
	③ 国際社会において必要不可欠な英語によるコミュニケーション能力を身に付けようとする態度を育成する。	NSH推進 外国語科	英語による実践的コミュニケーション能力の育成を図り、定着度の指標としてGTECを定期的に受検している。また大学入試で、GTEC-CBTを活用する生徒が増加傾向にある。	【成果指標】 生徒の英語による実践的コミュニケーション能力が順調に伸長している。	2年次12月に受検するGTEC検定版において、CEFR-Jの基準で、A2.2以上の成績を収めた生徒の割合が、 A 60%以上 B 50%以上 C 30%以上 D 30%未満	Dの場合、改善策を検討する。	12月のGTECの結果で集計する。
	④ 高い志を持って進路達成に向かう生徒を育て、個々の生徒に応じた進路志望を達成する。	進路指導 教務 学年 教科	令和2年度の合格者数は、難関大学17名、金沢大学62名、国公立大学230名、現役合格率は58.8%であった。難関大学合格者は昨年制度変更のため激減したが、2年度は増加に転じた金沢大学合格数も伸びた。国公立大学現役合格率は近年20年で最高の数字であり、アイウの項目ですべてで基準を上回っている。最後まで粘り強く頑張ることが結果とは別に、次に繋がることを強く指導してきた成果であると考えられる。	【成果指標】 ア 難関大学合格者数 20名以上 イ 金沢大学合格者数 60名以上 ウ 国公立大学合格者数 200名以上	合格者数が A ア・イ・ウの3指標すべてを達成 B ア・イ・ウのうち、2指標を達成 C ア・イ・ウのうち、1指標を達成 D ア・イ・ウの3指標とも達成できず	Dの場合、進学指導体制を見直し、改善策を検討する。	合格実績で集計する。
	⑤ 「進学校における部活動」を追求し、学校として生徒が学習と部活動を両立できるよう配慮し、かつ指導を徹底している。	生徒指導 学年 各部顧問	すべての部活動が原則平日1日、土日1日の休養日を設定している。「効果的・効率的な活動に取り組んでいる」と回答している生徒が前期80%、後期77%であった。また、下校時間を遵守している生徒が前期92%、後期93%であった。2つの項目ともに前年度よりも改善の傾向にある。	【努力指標】 限られ時間の中で効率的・効果的な部活動を起こさない、学習においても効率的・効果的にできる工夫をする。	限られた時間の中で効率的・効果的な活動に取り組んでいる部活動が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	Dの場合、改善策を検討する。	学校評価等で調査する。
				【成果指標】 下校時間を遵守させることによって、学習時間の確保とけじめある学校生活を徹底していきたい。	下校時間を遵守している生徒が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	Dの場合、改善策を検討する。	学校評価等で調査する。

重点目標	具体的取り組み	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
2 校訓「質実剛健」を不易のものとし、挨拶や感謝の心、規範意識やいじめを許さない姿勢など人としての基本を身に付けた、心身ともにたくましい生徒を育てる。	① 登下校指導、街頭指導、挨拶運動を通して規範意識を向上させる。	生徒指導 総務	「積極的に挨拶をしている」については、「よくあてはまる」と「ほぼあてはまる」の合計が生徒は前期82%、後期85%、保護者は前期61%、後期65%であった。平均75%となった。 また、「きちんとした頭髪。服装をしている」については、「よくあてはまる」と「ほぼあてはまる」の合計が生徒は前期97%、後期98%、保護者は前期90%、後期91%であった。平均は95%となった。 2の項目ともに前年度よりも低い評価となった。	【成果指標】 あいさつにより元気で活力ある学校づくりと品位ある頭髪・服装を目指して指導する。	・積極的に挨拶をしていることについて (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない ・きちんとした頭髪・服装をしている (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない	挨拶の(ア)+(イ)の合計が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 頭髪・服装の(ア)が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満 Dの場合、改善策を検討する。	学校評価等で調査する。
	② 交通安全教室、自転車マナー・ルール検定、街頭指導等を通して交通ルール遵守の指導を行う。	生徒指導 総務	交通ルールについて「いつも守っている」生徒は前期60%、後期56%であった。平均は58%となった。 また、「だいたい守っている」を含めた合計は前期90%、後期91%であった。 今年度も生徒、保護者、教職員が協力した交通安全啓発活動に取り組み、生徒の交通安全遵守の意識を高めていきたい。	【成果指標】 命にかかわることであるため、交通事故0件を目指して、交通ルールを遵守する取り組みや指導を行う。	生徒は自転車に乗車する際、交通ルールを (ア)いつも守っている (イ)だいたい守っている (ウ)あまり守っていない (エ)ほとんど守っていない	(ア)の%が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満 Dの場合、改善策を検討する。	学校評価等で調査する。
	③ 各課や学年が連携を密にすることによって、生徒の悩み(学習・人間関係・部活動など)が深刻化し、不登校にならないように、相談しやすい環境を整える。	相談 生徒指導 保健 学年	学校評価アンケートの結果から、「桜丘高校は学習における悩みや人間関係(いじめ等)に関する悩みを相談しやすい」という質問項目に対して、「A:よくあてはまる21%」「B:あてはまる41%」の合計が62%で目標の70%に達成していない。一方で「E:わからない」と答えた生徒は29%にのぼる。これらの生徒は学校で相談をしたことがないと考えられるので、悩みが生じた際にはいつでも相談できる雰囲気作りが必要である。	【成果指標】 (生徒用) 生徒が悩み(学習・人間関係・いじめ・部活動・健康状態など)について学校に気軽に相談することができる。 (教員用) 問題の早期発見のため、悩みを抱える生徒の発するサインを見逃さず、対応することを意識している。	(生徒用) 本校は悩み(学習・人間関係・いじめ・部活動・健康状態など)を相談しやすい。 (ア)とてもよくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (オ)わからない (教員用) 相談課と各課・学年・関係委員会とが連携し、悩みある生徒の早期発見と対策がとられている。 (ア)とてもよくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (オ)わからない	(生徒用) (ア)+(イ)の%が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満 (教員用) (ア)の%が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満 Dの場合、改善策を検討する。	(生徒用) 学校評価(生徒)で調査する。 (教員用) 学校評価(教員)で調査する。
	④ 面談等を通して、生徒が主体的に自分の生活や時間の使い方を振り返る、自律の態度を育成する。	生徒指導 学年	スマートフォン使用時間が1時間以内の生徒が前期・後期ともに21%であった。使用時間が増えた原因としては、前年度は休校による配信授業やメールによる検温や情報収集等によりスマートフォンを使用する機会が多くなったと考えられる。	【成果指標】 スマートフォンについては学年集会や担任による面談等で生徒に働きかけ、学習に効果的な使い方などに工夫できるよう自律の態度を育成する。	学習以外でのスマートフォンの使用時間が1日1時間以内であるという生徒が A 40%以上 B 30%以上 C 20%以上 D 20%未満	Dの場合、改善策を検討する。	学校評価等で調査する。
	⑤ 幅広い読書を意欲的に行うことで思考と情操を深め、自らの人格形成に活かす生徒の育成を図る。	図書 学年	令和2年度は、臨時休校中の4月・5月に1冊以上本を読んだ生徒は54.6%、6月1ヶ月間は25.5%、9月1ヶ月間は73.2%、2月1ヶ月間は30.4%で、平均値は43.2%(令和元年度は36.7%)であった。	【成果指標】 1冊も本を読まない生徒を減らし、進んで読書に親しむ姿勢を身につけさせる。	1冊以上本を読んだ生徒の割合が A 50%以上 B 40%以上 C 30%以上 D 30%未満	Dの場合、改善策を検討する。	読書量調査アンケートにより集計する。

重点目標	具体的取り組み	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
3 校是「文武両道」を実践するため、教職員の共通理解のもと、生徒の主体性、自己肯定感を高め、明るく活気があり、地域から信頼される学校づくりに努める。	① 校長が示すビジョンとリーダーシップのもと、全教職員が組織的に協力し合いながら学校運営がなされている。	全教職員	各課・各学年が連携を密にし、会議の効率化や分掌業務の見直しを行う中で、各教員の生徒と向き合う時間を確保することに努めている。	【努力指標】 教職員の共通理解のもと副主任の役割を明確化し、業務の平準化を促進させ、より組織的な学校運営を進める。	業務の平準化に向けた取り組みがなされ、組織的な学校運営が進められている。 (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない	(ア)が 40%以上 A 30%以上 B 20%以上 C 20%未満 D Dの場合、分析および改善の検討を行う。	学校評価(教員)で調査する。
	② 校内研修会をより充実させ、今日的教育課題の理解とそれに対応しうる教員の資質を高めるとともに、若手教員早期育成プログラムを計画的に実施する。	教務 進路指導 保健 相談	教員対象の後期学校評価アンケートにおいて「よくあてはまる」「ほぼあてはまる」の合計は94%であり内訳はそれぞれ(ア)が28%、(イ)が66%であった。	【満足度指標】 研修に取り組むことにより専門性と指導力が高まり、さらに、若手教員早期育成プログラムの計画的な実施により、以後の教育活動に役立てることができたと感じられる。	取り組んだ研修の成果を教育活動の充実に役立てることができた (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない	(ア)が A 40%以上 B 30%以上 C 20%以上 D 20%未満 Dの場合、改善策を検討する。	学校評価(教員)で調査する。
	③ 部活動の活性化を通して、生徒が誠実に学校生活に取り組むとともに、自主性や自立心の育成を図る。	生徒指導 各部顧問	部活動の加入状況について3年生を含む前期は87.8%、1・2年生のみの後期は88.3%であった。平均は合計88.1%となった。 運動部と文化部の割合の平均は運動部58.7%、文化部29.5%であった。 また、学年別による部活動加入状況の平均は1年生95.6%、2年生83.2%、3年生82.5%であった。	【成果指標】 部活動の活性化を通して、文武両道を実践する中で、生徒の自主的な取り組みと自立心の育成を目指したい。	部活動に加入している生徒の割合が A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満	Dの場合、改善策を検討する。	部活動加入状況を集計する。
4 組織運営・教職員の働き方の改善に対する意識を高め、時間外勤務時間が80時間を超えないように、より効果的な教育活動を実践する。	① 業務を細部まで見直し、会議や組織の運営、業務遂行の効率化、教職員の意識改革を進めることによりワークライフバランスをとり教育活動の向上に努める。	教務 生徒指導 全教職員	昨年度の来校者数は、PTA総会及び学年別懇談会0名、1・2年保護者進路説明会527名、桜高祭0名、学校公開(教育ウィーク)28名、3S歩行(含協力者会議)438名、学校訪問(中学校PTA)56名(3校)、入学式457名、卒業式368名で、1874名であった。感染症対策のために来校を控えてもらった影響が大きい。また、昨年度の本校ホームページへのアクセス数は371,905件(前年度 364,780件(3月末))であった。	【成果指標】 保護者等が生徒及び学校への理解を深めるため、学校が企画する行事に積極的に参加する。	本年度、下記の本校学校行事に参加した保護者の延べ人数が A 4500名以上 B 4300名以上 C 4000名以上 D 4000名未満 行事 PTA総会、桜高祭、学校公開、進路説明会、3S歩行、入学式、卒業式、学校訪問(中学校PTA)	Dの場合、学校行事の内容やPR方法を検討する。	各学校行事の際の来校者実績で集計する。
			【成果指標】 本校ホームページをこまめに更新し、アクセス数を増やす。	年間を通じての本校ホームページへのアクセス数が A 40万件以上 B 35万件以上 C 30万件以上 D 30万件未満	Dの場合、改善策を検討する。	アクセスの実績で集計する。	
4 組織運営・教職員の働き方の改善に対する意識を高め、時間外勤務時間が80時間を超えないように、より効果的な教育活動を実践する。	① 業務を細部まで見直し、会議や組織の運営、業務遂行の効率化、教職員の意識改革を進めることによりワークライフバランスをとり教育活動の向上に努める。	教務 生徒指導 全教職員	高い目標を掲げ文武両道の推進する中で教職員に求められる業務が多種多様であり量的な負担も大きい。組織運営・教職員の働き方の改善に対する意識を高め、より効果的な教育活動を実践する必要がある。	【努力指標】 ワークライフバランスを意識して、生徒に対する時間を確保し、定時退校ウィーク、部活動休養日等により時間外勤務を80時間未満とする。	時間外勤務時間を昨年度より減少させることができた (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)+(イ)の合計が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	Dの場合、評価が低いと判断し改善策を検討する。	学校評価(教員)で調査する。